



《高視聴率が続くNHK朝

の連続ドラマ「花子とアン」の見どころの一つが、仲間由紀恵さん演じる柳原白蓮と吉田鋼太郎さん演じる九州の石炭王「嘉納伝助」とのやりとり。脇を固める「川筋者」たちの言葉遣いも含め、筑豊言葉のセリフを監修した》

ドラマの方言指導では、その地方出身の俳優が務めるケースが多いんです。私の場合、3月末からの放送開始なのに、知り合いを通じて話が決まったのが1月に入ってから。筑豊出身の芸能人が少なかったのがラッキーでした。おかげで、ドラマにも伝助宅で働くお手伝い役として出演

「花子とアン」で筑豊言葉指導

芳野 友美さん



しました。

《初めての方言指導で、しかも舞台は大正時代。加えて最もセリフが多い伝助は男性。スタッフから台本をもらうと、実家の父安則さん(65)と頻りに電話のやりとりを交わしてセリフを決めた》

私が吹き込んだテープを事前に出演者に渡し、撮影現場で実際に話してもらった。本当に父には助けられましたが、役作りに入っている俳優さんにとどのタイミングで指導するから全てOKなのではないのか難しいところ、例えば相手をお願いする

とき筑豊では当たり前に使われる「〜しない」という言葉。

裏方さんの視線で現場を見ることも学びました。《担当する撮影はすでに終了。次の仕事までの合間に約半年ぶりに帰省し、伝助のモデルになった伊藤伝右衛門の旧邸宅も初めて訪れた》

ドラマで使われた伝助邸はスタジオ内に建てられたセット。旧伊藤邸を参考に、「大上」の人物の魅力を軸に、吉田鋼太郎さんの演技が肉付けされ、今後伝助は最高に格好い人物になっていきます。

丁寧さは違いました。ここでロケをしたらどんなにリアリティのあるドラマができるのか。また別の機会にでも撮影があるならばぜひ参加したいと思いました。

《伝助たちが登場するのは8月上旬まで。ドラマの影響で、旧伊藤邸への来場者数が前年比で大きく増加している。ただ、演奏会でせんべいをばりばり食べたリ、肉を手

でつかんだりする伝助の描かれ方には「筑豊のイメージを悪くする」など地元で批判的な声も少なくない》

旧伊藤邸人気を紹介した

西日本新聞の記事は、コピーして撮影現場の2カ所に貼ってました。確かにそういう指摘も読みましたが、安心してください。野卑な所作も、登場人物にインパクトを持たせるための演出です。脚本家の

中園ミホさんは伝右衛門の大ファン。伝右衛門という歴史上の人物の魅力を軸に、吉田鋼太郎さんの演技が肉付けされ、今後伝助は最高に格好い人物になっていきます。

実は撮影現場でも伝右衛門に魅了された俳優やスタッフは多く、もう伝右衛門に会えない喪失感「伝(右衛門)ロス」状態を何人も訴えています。ドラマを通じて、全国の人たちが抱いていた「悪者」側だった伝右衛門のイメージが変わることも確信しています。

(糸山信)

よしの・ゆみ 飯塚市出身。

34歳。嘉穂東高在学中だった17歳で、雑誌「JUNON」のオーディションから芸能界デビュー。23歳頃から女優活動を本格化し、NHK大河ドラマの「龍馬伝」や「八重の桜」にも出演。

撮影現場は「伝ロス」ぶり